

令和6年度 第1回山梨県スポーツ推進審議会
会議録

- 1 日 時 令和6年10月31日(木) 午後2時00分～午後3時25分
- 2 場 所 丸栄ビル2階 202会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 12名
飯田忠子、井出仁、金澤翔一、小林幸彦、小山さなえ、佐野夢加、澤田昌宏、中山哲郎、奈良妙子、松澤仁、山田芳樹、戸田徳和
 - (2) 事務局
スポーツ振興課長、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室長、スポーツ振興課総括課長補佐、スポーツ振興課主幹、スポーツ振興課課長補佐他3名、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室室長補佐
- 4 傍聴者等の数
傍聴者 なし
報道機関 1社
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 課長あいさつ
 - (3) 会長あいさつ
 - (4) 議 事
 - (5) 閉 会
- 6 議事
[報告事項]
 - ① 令和6年度山梨県のスポーツ振興施策について
 - ② その他
- 7 議事の概要
(議長)
報告事項の「令和6年度山梨県のスポーツ振興施策について」、事務局から説明をどうぞ。

(事務局)
各担当補佐から資料に基づき説明。

(議長)
事務局の説明が終わったが、内容について、ご意見・ご質問等があればどうぞ。

(委員)
様々なところで、県の補助金を利用して、いろんな地域で子供たちのスポーツを通じて体力向上だったり、健康増進に向けて取り組んでいることがすごくよくわかります。障害者も

含めて、共生社会に向けて一緒にできたら一番いいのかなっていうところに、私は尽きるんですけど、そんなことを感じています。

(議長)

ほかに何か気づいたことがあればどうぞ。

(委員)

県のそれぞれの政策を見せていただきました。私どもはどうしても学校体育という部分で、体育や部活動などが中心であります。県がこのような子供たちが学校以外でスポーツを楽しめるような機会を設けていること、また、小学校の段階で、このような、今後トップアスリートを目指すような事業を展開しているところについては、学校現場にも広く話をしていかなきゃいけないと会議の中でも言えたらと感じました。

(議長)

ではほかの委員の方、どうぞ。

(委員)

これからのイベントといいますか、今後、実施されるものもあるんですけど、過去の令和4年、令和5年で、例えばトップアスリートの発掘事業で「甲斐人の一撃」がありますが、これらに参加された方の反応や指導者の感想はどうだったとかいうことを聞かせていただくと、この事業の成果が分かるのではないかなと思いました。

(議長)

では事務局、よろしいでしょうか。

(事務局)

「甲斐人の一撃」の事業を通しまして、子供たちの反響もいいし、教える指導者側からするとやはり能力の高い子が非常に揃っているというようなことを聞いております。

この競技を継続していけば必ず良い選手になるというところですが、現在のところ中学校では今までもともとやっていた部活動で一生懸命取り組んでいる子もいるような状況です。

(議長)

次に、委員をお願いします。

(委員)

私もこの補助事業については、今、小学校で勤務しているんですけども、小学校年代はやはり土台となる部分を、子供たちがたくさん遊んで体力をつけていくっていう時期だと思っているんですけども、なかなか遊びが広がらなくて、決められたものでしか遊べなかったり、自分たちでそれを展開して遊びをさらに面白くしていくとかがなかなかできないなっていうことを思っているんです。

例えばボールを与えたらそれを使って何をするかとかがあっていう、そういう発想がすごく狭くなってるなあとか、これしかできないとかがあっていうふうになっていく中でうまくなってるなあ、なんていうことを思っているところもあるんですけども、やはり、ステージ1からステージ3までがすごくあつという間な感じに見えちゃうんですけども、世界で戦うまでってのはかなり長い道のりがあるので、やはり小学校の4年生ぐらいの子が、オリンピックって言ったときにどこかでつまづくことだったり、今聞いているスポーツはアーチェリーとか、普通の小学生の学校生活で触れてないような種目ばかりだと思うんですよね。

なので、今競技人口もすごく少ない中でやっていると思うんですけども、さらに世界が広がっていく中でいろんな選手と会ったときに、ちょっと自分が思っていた伸び率と違ったとか、そういう部分も必ず出てくるんじゃないかなっていうことを頭に入れながらそれをしっかりバックアップできるようなサポートが必要だと思います。

そこで崩れてしまっただけでは本当にかわいそうなことになってしまうので、ここまで大きく、やっぱりオリンピックや世界選手権で活躍できるアスリートへと育てていきますというたっているんで、やはり保護者も一緒になって、いろんな部分でのサポートもしっかりしてい

ないと「あれ？せっかく入ったのに・・・」みたいなことになってしまっは、いけないと思うので、そこをしっかりとっていただけるといいなっていうことを思っています。

自分も長きに渡ってスポーツをしてきてたので、すぐには結果が出るものではないと思うんですけども、長い目で見て、こつこつと続けてやってもらえるような、そんな取り組みができればいいのかなというふうに思います。以上です。

(議長)

ありがとうございました。ほかに他の委員からいかがでしょうか。

(委員)

ご説明いただいた事業は、私どももいろいろ関わってるところがあります。

そうでないものもあるんですけども、ニュースポーツ、アーバンスポーツからパラスポーツと非常に幅広く、県で施策を組み立てられて実施されているということで、また、かなり県のスポーツ施策は、幅広くかつ現代的なものに取り組まれているということで、私たちができるだけのご支援をしていくということで今も考えておりますし、ご協力させていただきたいと思っております。

特に私どもとしますと「甲斐人の一撃」が、8年後の国民スポーツ大会が山梨県で2巡目ということもありまして、ここで育った方々がちょうど国スポの種別でいきますと少年部門の担い手になる方々もいると思われまので、ぜひ山梨の中学校に入って、運動部活動は今非常に難しい局面を迎えているんですけど、何とか山梨にそのまま残りいただいて、高等学校で部活動かクラブでさらに磨きをかけていただいて、願わくばやまなし国スポで優秀な成績をおさめていただいて、私は「甲斐人の一撃」の第1期生なんです、もしくは第2期生なんですっていう言葉が聞けるといいなとそんなふうにも思っておりますので、私ども精一杯応援したいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

(議長)

ありがとうございました。

これは大変実績のあるすばらしい施策だと思っておりますので、皆さんからご意見をいただきました。

それでは事務局からの説明がしきれてないので、続きをお願いします。

(事務局)

(資料 15 ページから説明)

(全国障害者スポーツ大会の説明)

(資料 16 ページから説明)

(議長)

報告事項の②その他として事務局からなにかありますか。

(事務局)

その他の報告事項はないのですが、今年度のスポーツ推進審議会は、これが最初で最後の会議になると思いますのでそれだけ承知いただければと思います。また、もし急遽開催することになりましたらまたご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(議長)

それでは、もう少しご意見を聞こうと思います。お願いします。

(委員)

甲府市は、全国に先駆け平成 11 年度に学校医スポーツドクター制度を発足させて、その後増員がされ、市内 36 の小・中学校に配置され、現在、整形外科医が 2~3 校を担当しています。

先程、4年生からというのを聞いて、思いましたが、現在、小学校入学前から、体力の無い子と体力のある子の二極化があります。昔は兄弟が多くて、暗くなるまで外で遊んでいた時代でしたが、今では、塾に追い立てられ、暗い中、外で遊ぶと危ないから、家で遊ぶ状況

があり、昔の子供より体力が低下して、姿勢も悪くなっていると感じています。体力が無くて運動しない子は、一寸したことで怪我をし易く、体力不足でついていけないし、体力があつて、運動する子は運動障害を起こし易い状況にあります。昔は近所に上級生がいて、小6が頭で引き連れて遊んでくれていた記憶があつて、中学生になった途端に、大人になった為に相手をしてくれなくなる。

先程、4年生で体力をチェックすると聞いて、いい処かと思いましたが。僕たち整形外科医が、運動器検診で、側弯症をチェックする際には、小学校5年と中学1年でチェックしています。

2~3人引掛かるお子さんがいますし、体力テストで自信を持ちやる気の出る子と応援する家族、興味を示さない子といます。成長期には色々な事をやって、興味がある事を出来れば良いのですが、日本の場合は、同じ競技をずっとやるので、同じ所ばかり使うので体を壊すことが多く、米国など諸外国では、季節によって水泳したり、球技をしたりで色々なスポーツをしている事を考えると、体力的には日本はまだまだかと思えます。そういう意味で4年生以降、10人でも、20人でも好きな事で自分の可能性にかけて、努力するでしょうし、大谷翔平君のように自分の夢を持って努力し大人になった人もいますから、そういう意味で、こういう子供を応援しないといけないと思いましたが。今は、兄弟も少なく、兄弟喧嘩も出来ない場合も。昔は3~4人いたら喧嘩は日常茶飯事で、ですから、僕らの時代は、社会に出て苛められても戦うのです。黙っていない、やられたらやり返す。傷害事件にまではならない程度で、それで鍛えられていくわけです。今はそういうのが少ないから、色々な機会から出て、仲間が出来るのは良いのかなと思えます。

それに良識ある大人がついて、正しい指導をして頂きたい。スポーツには怪我が付き物なので、怪我した時にどうするか、怪我をしても手術してリハビリして復帰する。結果が全ていい訳ではないので、大谷君も怪我しますし、ただ怪我しても体力があり、気を付けていれば、怪我の程度が軽くて短期間で復帰できる。

今日、ここに来る迄は、この会議は、どんな話が出るのだろうかと思ってきましたのですが、僕らの見えない裏方で、頑張っている方々がいるのだなと思えました。

僕らは、怪我した時に相談を受けて、紹介する。大学の初期救急医療センターでは、怪我した人を診察してどこに紹介するか、誰に診てもらおうか判断して、振り分けをしています。怪我人を県立中央病院に送ったら、専門医がいる国立甲府病院の誰々先生に送りますとか、何処でも診療できる訳ではないので考えます。県を始め、関係諸機関が、協力してバックアップする良い事と思ひ感心して聞いていました。日頃から、怪我に強い体づくりをすることも大事だと思えます。

(議長)

ありがとうございます。

さきほど、国スポでバレーボールが第3位ということでしたが、よろしく願ひいたします。

(委員)

国スポに行かせていただいて、バレーボールの中銀が格上のチームを撃破して、見ていて誰もがすごく楽しそうにやっていて、劣勢になっても常にね。これはどうしてかと思つて考えると、やっぱりバレーが好きなんだよっていうところ。

それでいろんな施策と繋がるかもしれないんですが、やっぱり楽しいなっていうこと、子供たちが運動して楽しいなっていうふうに思わせることが、体力向上に繋がっていくっていうのは学習指導要領も含めてやらなきゃいけない。

例えば、この資料の1ページにある「運動を420分以上やってるか」ということが、結果としてやってなかったということなんですけれども、実は、運動をすることが大事だと山梨では非常に重く思っていて、中学校では体力も全国平均を7年連続で上回っています。でも、小学校は必ず下回るんです。それはなぜかっていうと、去年の分析では、子供たちはほとんかく体を動かして楽しいなと思ってそれで運動を好きになり中学校に行つて部活動をする。それで体力がついて全国平均よりも体力が高くなるのではないかと分析しました。

ですから基本的には、バレーボールで勝ったか負けたかという結果がありますけれども、やっぱり楽しいって思わせることが指導者にとって一番大事であつて、この「甲斐人の一撃」とかいろんな取り組みがありますけれども、学校体育と生涯スポーツ・社会体育との繋がりが

は持っていかないとなかなか繋がっていかないんじゃないかなっていうふうに思って聞いていて、それには、やはり保健体育課とスポーツ振興課の連携が必要だろうと結論づけさせていただきます。

(議長)

ありがとうございます。
それでは、委員、よろしくお願いします。

(委員)

先ほど委員がおっしゃったように学校教育の果たす役割って非常に大きいと思っていて、やっぱり運動好きにさせるっていうことが大事。僕も学生によく言うんですけど、学生も、運動が苦手じゃないっていう子が結構多かったです。その辺どうしようかなといつも悩んでるところです。関係ないんですけど、僕はずっと水泳やってまして、青少年センターによく泳ぎに行ってたんですけど、突然、屋内プールがなくなって寂しいなと思ったら、そこにパラスポーツセンターができるというので、たいへんに素晴らしいなと思いました。

僕も子供がまだ小さいんですけど、経験させたいなと思いました。

「甲斐人の一撃」は、小学生で1年半ぐらいしかやられてないと思うんですけど、先ほどもどなたかおっしゃってましたが、未来のトップアスリートを発掘する事業なので、継続的にやっていかれた方がいいかなと思いますし、競技もある程度絞られてると思いますので、その中で、未来の金メダリストを養成できるような施設だったり、指導者の人材も必要になってくると思います。このプログラムはすごくいいんですけど、それをどうやって継続させていくかということまで考えてもらえばもっと発展していけると思いました。

(議長)

では、委員、お願いします。

(委員)

今、皆さんの話を聞いて、この基本理念からの基本方針、この5つの施策から、本当に県としてはいろんな取り組みをされてるなと感じました。

私の専門はスポーツ計画、マネジメントですので、その視点から少しお話しさせていただくと、今回のイベントですね。ブレイキン祭りであったり奥富士ロングライド、eスポーツ等々のイベントについて、思っていたよりすごくよかったのかなとこの数字を見て感じました。

県としても、スポーツによる経済の好循環ということで、こういう施策を出していますし、こうやって呼び込む仕組みですね、県外からのこういう呼び込む仕組みを作るっていうことは非常にいいことで、山梨県にとっても今後のポイントの1つになるんじゃないかなというふうに感じました。

(議長)

はい。では次に委員、お願いします。

(委員)

私は、今、女子硬式野球部の指導をしております。

今、県の施策を聞きながら、すばらしい施策で大変だなと感じています。

誰もがいつでもどこでもという基本理念でありますけども、そこから入っていただいて、私事なんですけども、私は昭和61年のかいじ国体の成年男子のソフトボールのメンバーで、もう国体は、私が死ぬまでには来ないんだなと思ってましたが、いよいよもう8年後ですか、山梨県に来るといところで、この国体に向けて強化についてもご尽力いただきたい。大変だと思いますけれども。ただ野球、ソフトボールの観点から話をさせていただきますと、やはり野球、ソフトボールっていう競技は誰かがいないと何もできないっていうところがあります。

お父さんとキャッチボールとか、お兄ちゃんとキャッチボールとか、誰かがいないと競技に関われないことで、今、本当にプロ野球の選手を招いて、これから非常に忙しくなるんですけども、未就学児を対象にボール遊びからさせていくという教室が始まっています。

そういう部分で本当に誰が支えていかないと、サッカーであればボール1つあればゴロゴロ転がせるんですけども、それ以上に相手がいる競技っていうものの普及は非常に大変だなと感じています。

ぜひそんなことをご理解いただきながら協力をお願いしたいと思います。以上です。

(議長)

ありがとうございます。委員、お願いします。

(委員)

私は、特定非営利活動法人を8年前に立ち上げました。その前は教員をやっていたんですけど、教員をやめて、バスケットボールで食べていこうということで普及活動をさせていただき、8年目になっております。

フライングディスクアルティメットっていう競技があるんですけども、縁があってそちらをやったところ、非常に子供たちの興味があるというので、バスケットボールっていう名前ではあるんですけども、2種目を自分たちの団体でやっていて、その後、総合型地域スポーツクラブのことを知りまして、今、そちらの理事をさせていただいております。

8年間、自分でバスケットボールをやりながら、それをメインで収入を得て生活してるわけですけども、いろんなスポーツの現場を見ると、かなり疲弊してるなという思いはあります。

県のいろんな施策があるんですけども、例えば、現場で今言われている学校部活動をどうするかいうところを、甲府市の取り組みや他の市の取り組みとかを実際現場で見ているんですけども、指導者がいないであるとか予算が足りないであるとか、もう喫緊の課題であっても、なかなか現場が回ってないというようなところもありまして、総合型地域スポーツクラブを使えばいいんじゃないかというところなんですけども。

例えば、甲府市では今のところ3つの総合型地域スポーツクラブがあるんですけども、1つがヴァンフォーレ甲府でこれは県で一番大きいところなんですけども、もう1つはUスポーツクラブ、そしてうち。Uスポーツのサッカーとうちは予算的、或いは事務的な部分でかなり経営的に難しい、部活動を受け入れたりするっていうことは。

何を申し上げたいかと言いますと、いろんな施策がある中で、現場でやりたいとか、子供たちのために何かしたり、ご高齢の方に対して何かをしたいという思いを持つての方はいっぱいいらっしゃるんですけども、なかなか予算や人的な部分が、現場に回ってこないっていうのが実際のところあります。

先ほど他の委員から野球の教室をするというお話がありましたがおそらく予算とかも苦労されてるかなと思います。

その1つ1つ皆さんがやられてることが実を結ぶため、或いは継続的になるために、個人個人の努力よりも、組織をうまく固めて進めていくっていうことが大事と思っていますので、こちらの推進計画の中にもありますけれども、誰もがいつでもどこでも、スポーツに親しめる豊かな山梨を作るためには、単発で終わらせるんじゃなくて、組織的に、市町村或いは県でも一緒に手を取りながら進めていくことが非常に大事と思っています。

(議長)

ありがとうございました。

私の方で指名をさせていただきましたが、参加してただ黙って帰るのはありえないと私は思っております。せっかく出てきたので、顔合わせをして思っていることを県に伝えていただき、力を貸していただくとその辺もやりやすくなると私は思います。

そんなことで、一人一人の意見をいただきましたけれども、私も、今日、県の施策を聞きまして、パラスポーツの件ですけど、私も体育館でボッチャを受け入れたときに、バリアフリーとしてトイレもできている、入口のバリアフリーの施設もできていると思っていたんですが、お話を聞いたら、エレベーターを観覧席にも付けてほしいと言われました。

私はそれを聞いたときに、まだまだ私たちは支えることができていないなとそんなことを思い、衝撃的でした。

ただ、一通りの施設をバリアフリーで作ったからいいじゃなくって、やっぱり一番はどんな苦しみを、手が動かない、足が動かない、そういうすべての人に思いがいかないと、スポーツの力ってそこにいかないと駄目なんだなっていうことを私は日々思っています。

そんなことで、今日こうして委員のお話を聞いて、これだけ力のある方が集まっていれば、県の施策ももっともっと充実していくのかなと、こんなことを議長としてまとめさせていただきます。

その他に、何かまだ言い足りないことがありましたら、もう1回でもいいですのでぜひよろしくをお願いします。

(委員)

まだ、一昨日佐賀の全国障害者スポーツ大会から帰ってきたばかりなんですけど、車椅子の選手3名と私は武雄市に陸上競技の宿泊施設があったんです。それで、武雄市を朝の8時に出発して甲府に帰ってきたのが夜の11時という時間帯。それも車椅子3台、それに介助者。名古屋まで新幹線、そして名古屋からバスという行程だったのですが、バスの運転手の勤務体制っていうのがありまして、車椅子の方がトイレに行くことを拒んだっていうことがありました。自分の勤務時間はこの時間までで、車椅子でトイレに行く場合にはスロープを下ろして時間がかかるからということでした。

バスの運転手からそんなこと言われてきて、それって合理的配慮じゃないだろうっていうようなこともあり、本当に長時間あの子たちは大変だったんじゃないかなと思いました。また、介助者も雨の中帰ってきましたので、すごくかわいそうだとつくづく思いました。

そしてその子たちのお母さんが介助していましたが、精神的にもつらかったんじゃないかと思えます。

それから、障害者の競技の中で支える伴走者と一緒に走った白浜さんですけど、自分は陸上競技をやっていて、偶然、桃花台学園にいた先生との出会いで伴走していただくことができて13秒という素晴らしい成績を残せました。普段は、盲導犬を連れて福祉講話を行い、女性の自分がどういうふうな動きをとって、どういうふうに毎日生活しているのかといった日常生活のことを学校で話されています。

いろんな障害者がいるんですけども、例えばラグビーをやっていた方たちが何か運動したいと障害者福祉協会に相談があるんですけども、なかなかそういう場所にたどり着けない。

本当は自分の居住地に一番近い場所の総合型スポーツクラブの方で、例えば、車椅子で行きたいんだけども、どういうふうにしたらいいかという相談があったときに、できれば受け入れていただいて、その方が持つ力を探して、その人が自分を生かせる場所、輝ける場として運動の方法とかを聞いてあげて、こういう方法だったらできるんじゃないかと提案して、支えていただけたらと思えます。

昔だったら障害者や車椅子だったら、体育授業はお客さんっていうような形が多かったと思うんですけど、今はどんな子でも運動したい、障害者でも運動したいっていう気持ちがあるのでそれを支える、その子の持つ力を引き出していただけたらと思うんです。

障害者スポーツ協会だけでは難しいので、全県下で障害をお持ちだとか途中で障害者になった方たちの運動のサポートを、各地域、或いはリハビリ施設とか、いろんな場面で拒まず、サポートをしてあげることが選手の気持ち、向上心を持って頑張れる力になると思えます。体育館などに車椅子でいらっしゃる、筋トレなどをなさってる方たちがいると思うんですけど、皆さんに何かスポーツを、こんなスポーツができるんじゃないかっていうことを提案していただいて、リハビリを兼ねた体力の向上に繋がって、それがスポーツに繋がればいいなと思っております。

また、そういう方がいらっしゃったらお声をかけていただきたいと思えます。

(議長)

ありがとうございます。ほかに何かありますか。

何か全体でまだ言い残しているようなことがあれば、ではどうぞ。

(委員)

今話を聞いていて、パラスポーツセンターっていうのは、今、もともとあった体育館をパラスポーツセンターにしていくっていうことだと思うんですけども、さっき観客席がとかいろいろ話が出ましたが、これは1階にあるのですか。

(事務局)

はい。

(委員)

例えば、ここで何かの試合をしたいとなったとき、観客はどこで見ることになりますか。

(事務局)

コートの上に観客席はないので、そういう場合は大会の実行委員と相談させていただいて、観客をどこにつけるかということを考えていきたいと思っています。

(委員)

大丈夫かな。すいません、パラスポーツの現場をよく知らなかったけど試合をしたりするので、せっかく新たにできたので、こういうものがあつた方がいいとかあればいいなと思います。

(委員)

欲を言えばいろいろありますけれども、このセンターが仕上がるにあたって、例えば倉庫と倉庫の間に、クライミングで上る壁とか、視覚障害の方でも上る種目があるんですね、子供たちもそうですけれども、安全面考えるとちょっとつていうようなこともあるかとは思いますが、この壁を利用してクライミングなんかでもできたらいいかなと思います。

あとは、障害者ってなかなか集団がつくれないので個人でパラスポーツセンターを利用したときに、職員と一緒にやってくれたり、スポーツを勧めたり、こんなトレーニングをするところが鍛えられるよとか寄り添って指導していただいて一緒に活動していくつていうことが一番励みになると思いますので、パラスポーツセンターができるにあたって併せて要望したいと思います。

(議長)

ほかに何か関連でありますか。

(委員)

いろいろ私も思うところはあるんですけども、皆さんから今お話いろいろ出ましたので、そういうところを踏まえて、今後の山梨をつくっていただいでほしいなつて考えてます。

あと国民スポーツ大会ですよね、やはりそこに向かってこれからどういふ計画を立てて、施設は既存のつて書いてあるんですけども、果たして今の既存施設でできるのかなつていうのがすごく疑問に感じてます。ですのでこれからだと思ふんですけども、今後の計画については、慎重に、開催までは本当にあつという間です。

実は私も栃木県で栃木国体の立ち上げからずっと関わつていたことがあるので、その辺も踏まえて山梨県としても、国スポに向けて検討していつてほしいと考えています。

(議長)

それでは皆さんありがとうございました。

精一杯皆さんのご意見を教えていただいで、本当にみんなが幸せになることを祈りながら、議長の席を降りさせていただきます。本当に今日はご協力ありがとうございました。

(事務局)

議事の進行ありがとうございました。

本日は、貴重なご意見を様々いただきましてありがとうございました。

これは踏まえまして、今後取り組みを進めていきたいと思ひます。

それでは以上をもちまして、本日のスポーツ推進審議会を終了させていただきます。

長時間ありがとうございました。

(以上)